

日本映画批評家大賞

第32回

JAPAN
MOVIE
CRITICS
AWARD



一般社団法人
日本映画批評家大賞機構

JAPAN
MOVIE
CRITICS
AWARD
ORGANIZATION

祝辞

第32回日本映画批評家大賞の開催、おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。
日本映画批評家大賞はどこからも圧力を受けることなく、何が良い映画なのか、批評家大賞の見方で評価されてこられた。ここには淀川長治さんはじめ、水野晴郎さんや小森和子さん、この賞に携わってこられた方々の映画に対する強い想い、そして愛情をひしひしと感じます。

私ごとではございますが、役者生活を60年以上続けさせていただくことができました。大変ありがたいことです。その役者人生ではたくさんの思い出があります。特に淀川長治さんが「いい役者になったね」と声をかけてくれたことは鮮明に覚えております。かつて淀川塾で教えていただいたことの数々が、歳を重ねるごとに実感を伴ってまいりました。

このパンフレットをお読みの方、授賞式にお集まりの方々は映画への情熱と愛情をお持ちのことだろうと思います。映画は私にとって学校でした。本当の意味での学びの場所で、そのひとつひとつの学びが私の骨となり肉になって、今に繋がっております。

映画を作ることは毎回、冒険の旅に出るようなもの。携わる誰もが冒険者。いちど冒険の旅に出ると、果てしないエンドレスな砂漠の向こうのゴールに向かって、一步一步あゆみを進める。大変なチャレンジです。

しかし、その挑戦が観る方々へ、大きな感動を産み出すものだと思います。私もそのチャレンジに挑み続けてまいりました。それを思うと1本1本の映画がいかに大切なものであったか。

映画人が映画人に贈る賞。この映画賞がこれからも末長く続きますよう、心から願ってやみません。また、日本という国から生まれる素晴らしい映画作品が、たくさんの観客の皆さんに届きますように。私もスクリーンで皆さんにお会いできることを楽しみにしております。

淀川
長治



目次

02	祝辞
04	ご挨拶
06	日本映画批評家大賞の先人たち～日本映画に貢献した人たち～
08	日本映画批評家大賞機構の活動
09	第32回日本映画批評家大賞 受賞者・受賞作品のご紹介
	新人男優賞 — 南俊子賞 —
	新人女優賞 — 小森和子賞 —
	新人監督賞
	ドキュメンタリー賞
	アニメーション作品賞
	アニメーション監督賞
	助演男優賞
	助演女優賞
	編集賞 — 浦岡敬一賞 —
	脚本賞
	主演男優賞
	主演女優賞
	ワタシタチのトキワ荘賞
	特別賞 — 松永武賞 —
	特別主演男優賞
	ゴールデン・グローリー賞 — 水野晴郎賞 —
	ダイヤモンド大賞 — 淀川長治賞 —
	監督賞
	作品賞
30	事務局運営・授賞式協力スタッフのご紹介
31	日本映画批評家大賞機構からのご案内
32	第32回日本映画批評家大賞ご協賛企業のご紹介

ご挨拶

映画人による、映画人のための、映画賞。

日本映画批評家大賞を通して、この日までに沢山の笑顔と感動にめぐり逢うことが叶いました。これもひとえに映画をこよなく愛する皆様方のおかげと、心からの感謝を申し上げます。

創立から32年、淀川長治、水野晴郎、小森のおばちゃまという輝かしいビッグネームを失った後も、映画配給会社や広告代理店等、映画業界からの一切の制約を負うことなく、自分たちの眼で、自分たちの信じた作品を選ぶという姿勢を、かたくなに貫いて来ました。

今では選考委員は若返り、女性が男性の数を上回り、新しい風が吹いています。全員がやる気まんまん。寸暇を惜しんで、映画産業の最前線に足を運んでいます。

おびただし本数の映画に目くばせをして、他の映画賞では見落とされてしまいそうな、小規模な作品にも光をあてることができたのではと自負しております。

経験、知識、ネームヴァリュー……まだまだ様々な面において力不足を感じてはいますが、私たちの本気が通じて、今回の表彰式でも沢山の笑顔があふれますようにと、強く願っています。

今後とも、どうぞ皆様方からのご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

選考委員代表 島 敏光



ご挨拶

映画は時代背景をうつしていく一つの形であると私は信じています。コロナがあり、ウクライナとロシアの戦争があり、胸を締め付ける事件がたくさんございます。

水野晴郎映画塾の塾生時代から始まり、私の中の信念でもある想いは、塾長から教えていただいた、「日本映画批評家大賞とは、“炭鉱”の一番底にいるカナリア」だということです。カナリアが鳴いている間はガスは出ない。そのカナリアが日本映画批評家大賞であるということ。

女性の代表として初めての私ですが、その代表としても、はや3年が過ぎました。これからも批評家の皆さまと共に精一杯、これからの未来の日本映画界のために邁進する所存でございます。

優れた映画作品を通して各賞を受賞される皆さまに、賞を受け取っていただけるということは、32年の歴史の中で次々と受け継がれるバトンのようなものではないでしょうか。

いただいたそのバトンを胸に秘め、その年に公開された映画すべての作品に思いを馳せつつ、なかでも優れた作品に賞を差し上げられることに感謝しております。

今後とも日本映画批評家大賞へのご支援ご鞭撻を、何卒よろしくお願い申し上げます。

日本映画批評家大賞事務局
事務局長 清武 千園



日本映画に貢献した人たち



淀川長治

YODOGAWA NAGAHARU

映画の語り部として、
今なお愛され続ける映画界の巨匠。

日本映画批評家大賞のメンバーにとって、師であり、父であった。映画批評家というものの基本を教えられた大先輩である。また、日本における映画批評家のイメージを形作ったパイオニアでもあった。ブラウン管の中にニコニコと登場して、日本人に映画のおもしろさをやさしく伝えた功績は計り知れない。

映画を愛する人たちを生み出し、映画を作る人たちを励まし続ける。これが、日本映画批評家大賞に今も受け継がれ、これからも受け継いでゆかねばならない、その魂なのだ。



水野晴郎

MIZUNO HARUO

映画界を牽引した伝道師であり、
日本映画界の顔。

日本映画批評家大賞の生みの親、育ての親とっていい。その実行力と魅力なくしては、日本映画批評家大賞は存在せず、そしてここまで続くこともなかった。また、日本アカデミー賞を設立し、日本の数多くの映画賞を手がけている。

「水曜ロードショー／金曜ロードショー」でお茶の間の人気を博し、日本映画界の顔としてなくてはならない大きな存在であった。

映画を愛し、映画少年であり続けた姿は、このフレーズとともに永遠に我々の心に生きてゆくことだろう。「いやあー、映画って本当にいいものですね」



小森和子

KOMORI KAZUKO

映画をそして人生を教えてくれた、
比類なき批評家。

「おばちゃん」の愛称で広く親しまれていたが、日本映画批評家大賞のメンバーにとっても、ほんとうに素敵な「おばちゃん」だった。

まだ日本人の渡米が困難だった時代にも、ハリウッドに自ら渡り映画の取材を試みたほど映画にける情熱は大きかった。ジェームス・ディーンのお墓に毎年、花束をお供えしていたことは、ハリウッドでも有名なエピソード。フランク・シナトラや友であるシャーリー・マクレーンを通じ、ロサンゼルス映画批評家賞との交流に貢献した。

多くの海外の大スターたちの人間味にふれることで独特の映画論を展開できた唯一無二の存在であった。

日本映画批評家大賞の先人たち

品田雄吉

SHINADA YUKICHI

「キネマ旬報」「映画評論」などの編集者を経て、フリーの映画批評家として活躍。後進の育成にも情熱を注ぎ、多摩美術大学で教鞭を執って、のちに名誉教授にもなっている。2014年12月13日、肺がんのため逝去、享年84歳。日本映画批評家大賞やゆうばり国際ファンタスティック映画祭など、数多くの映画選考委員を務めた。

登川直樹

TOGAWA NAOKI

戦前の東京帝国大学文学部在学中から映画批評を執筆し、のちにカンヌ国際映画祭やベルリン国際映画祭の審査員も務めた国際的な映画批評家だった。2010年2月、92才で逝去。日本映画批評家大賞では設立時からの代表として、後の世代の映画批評家たちをバックアップした。その存在感は大きな支えであった。

双葉十三郎

FUTABA JUZABURO

幼少期から映画に夢中になり、映画館に入り浸る毎日を送る。批評歴80余年。映画に対する知識と造詣は群を抜いており、特に戦前の映画など、現在の映画評論家がカバーできない映画についても論評した。2009年12月12日、99歳で他界。その独特の映画評論は我々の教科書であり、道標だった。

日野康一

HINO KOICHI

学習院大学在学中に英国映画『赤い靴』に魅せられて映画業界へ。業界屈指の豊富な知識を惜しみなく分け与えた人格者でもあった。日本映画批評家大賞には第1回から参加。2010年10月10日、急性心筋梗塞で死去、享年81歳。シベリア鉄道に2回も乗って、水野晴郎を悔しがらせて喜んでた茶目っ気もあった。

以下、水野晴郎著

南俊子

MINAMI TOSHIKO

女流評論家の先達である。実にしっとりとした論理の持ち主。それでいて高ぶりは一切ない人であった。まだFOX映画のアルバイトの頃、試写の度に彼女に逢えるのが楽しみだった。智と美貌をかねそなえた我らが誇るべき先輩である。日本のミシェル・ブレッルと言われた美人である。

田山力哉

TAYAMA RIKIYA

フランス映画の大好きな人だった。毎年カンヌ映画祭に出かけて行く程。直情多感な批評家だった。曲がった発言をした若い宣伝マンを厳しくたしなめている姿を度々見たものである。フランスばかりではない。アメリカ、イギリスの人たちとも交友が深く、まさに日本を代表する国際派映画批評家であった。

増淵健

MASUBUCHI KEN

西部劇が大好きだった。ジョン・フォードやハワード・ホークスの大ファン。いや西部劇ばかりではない。アメリカ映画のことなら生き字引と言える知識を持っていた。マーナ・ロイが大好きだった。私の親友であり良きライバルであった。彼は死の瞬間、『駅馬車』のビデオを観ていたことを忘れない。

西條笑見

SAIJO SHOJI

お父さんは西條凡児、お兄さんは西條遊児。そしてご令嬢が西條三恵。宝塚で花と開いた歌姫である。正に芸能一家のサラブレッド。彼自身も関西を地盤にラジオ・TV・雑誌と映画評を発表し続けていた。彼の映画評の基本は人間愛。彼自身、人の人生を優しく見守るまなざしを持っていた。

横田彦次郎

YOKOTA HIKOJIRO

映画をこよなく愛した人物として、最初に思い浮かぶ人である。愛情と鋭いまなざしで映画だけでなく、その時代も活字で表現できる批評家として大変な重鎮であった。個人は日本語版・英語版のどちらでもこなす、新聞・雑誌などの映画コラムニスト。ハリウッドではアカデミー授賞式に参列、英語圏の映画人とのインタビューは多数を誇る。

日本映画批評家大賞組織団体
 一般社団法人 日本映画批評家大賞機構の活動

《活動内容》

日本映画批評家大賞機構は、以下のような活動を行っています。

- 1年間の映画上映作品を対象とし、別途規定に定める賞の授与。
- 映画芸術、映画評論等において映画業界を志す若手へ教育の場の提供。
- 映画推奨のため、メーカーより映画フィルムを預り、各地方において映画試写会の開催。
- 映画普及活動の一環として、会員の方へ映画鑑賞の機会と場所の提供。
- 映画文化、映画芸術の振興及び映画産業の発展に寄与するセミナー、講演並びにシンポジウム等の開催。
- 将来を見据え、若手の批評家を募り、批評家の育成機関を展開。
- 映画を通じ、同じテーマの企業とのコラボレーション。また、映画上映時において、企業CM及び企業の試供品を進呈する仕組みづくり。
- 日本映画の紹介及び日本映画批評家大賞機構としての活動内容を、テレビ・雑誌・インターネット等のマスメディアにおけるPR。
- アジア批評家大賞構想として、韓国・中国・タイ・極東ロシア・ベトナム・インド・インドネシア・オセアニア諸島など、アジアの批評家が一堂に集まり、我が国の作品はこれだというものを発表し、映画を通じて親交を深める場を創っていくものとする。

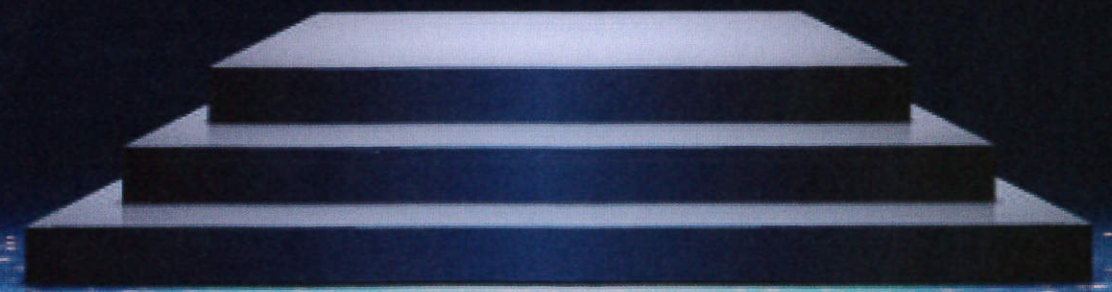
その他、映画の発展のために必要な事業を進めていく予定です。

世界の批評家賞
 World Movie Critics Award



<p>A LONDON ロンドン映画批評家協会賞 LONDON FILM CRITICS CIRCLE</p>	<p>C HONG KONG 香港国際映画祭 HONG KONG INTERNATIONAL FILM FESTIVAL</p>	<p>G LOS ANGELES / SAN FRANCISCO ロサンゼルス映画批評家協会賞 LOS ANGELES FILM CRITICS ASSOCIATION</p>
<p>B CANNES カンヌ国際映画祭 FESTIVAL INTERNATIONAL DU FILM DE CANNES</p>	<p>D KOREA 韓国映画評論家協会賞 THE KOREAN ASSOCIATION OF FILM CRITICS AWARDS</p>	<p>ゴールデングローブ賞 GOLDEN GLOBE AWARDS</p>
	<p>E CHINA 中国映画批評家大賞(準備室) CHINA FILM CRITICS ASSOCIATION AWARDS</p>	<p>放送映画批評家協会賞 BROADCAST FILM CRITICS ASSOCIATION AWARDS</p>
	<p>F JAPAN 日本映画批評家大賞 JAPAN MOVIE CRITICS AWARDS</p>	<p>サンフランシスコ映画批評家協会賞 SAN FRANCISCO FILM CRITICS CIRCLE AWARDS</p>
	<p>アジアシネマギルド(アジア映画批評家大賞) ASIA CINEMA GILD 韓国・中国・タイ・極東ロシア・ベトナム・ インド・インドネシア・オセアニア諸島</p>	<p>H AMERICA 全米映画批評家協会賞 NATIONAL SOCIETY OF FILM CRITICS AWARDS</p>
		<p>I NEW YORK ニューヨーク映画批評家協会賞 NEW YORK FILM CRITICS CIRCLE AWARDS</p>

第32回
 日本映画批評家大賞
 受賞者・受賞作品のご紹介





新人男優賞

— 南 俊子賞 —

坂東 龍汰

受賞作品

『フタリノセカイ』

ハリウッドでも議論となっている「LGBTQ+, 障がい者の役は」当事者が演じるべき」というテーマ。私見を述べるならば「そうであって欲しい」だが、そこには演技力が必要となる。本作の監督である飯塚花笑氏もトランスジェンダーであり当事者だが、インタビューの際に「日本ではまだまだ公表している俳優が少ない現状」と語っていた。

そんな監督がトランスジェンダー役に選んだ坂東龍汰は、“この役を演じなかったら一生後悔する”という思いで、トランスジェンダーの人々について撮影前から監督と一緒にとことん学んだそうだ。

ハードルの高い役を演じたから、今、必要なテーマの映画だから、賞に値するのかと尋ねられたら“そうではない”とは答えられない。しかし本作を初見で観た時のあの感覚は忘れられない。スクリーンの中にいるのは、俳優・坂東龍汰ではなく、明らかにひとりの女性に恋をした「真也」であり、肉体関係を持つことにも積極的になれず、子どもが好きなパートナーとの関係に悩むトランスジェンダーの「真也」だった。

物語の後半、二人で出した決断を松永拓野演じる俊平に相談するシーンがある。ここでの臨場感は、結（ユイ）役の片山友希との波長の合ったリズムから生み出され、三人の感情が大きくなるとなって観客を“その場”に引き込むほどの見せ場となった。

よく俳優たちが「相手の演技をしっかりと見て芝居を受ける」と言うが、これが上手い俳優は相手を輝かせつつ、映画全体を魅力的にする能力を持っている。本作では結の心の揺れが観客に共鳴しやすいのではと踏んだ飯塚監督により、真也は愛する人との未来を想像し、静かに葛藤するシーンの方が多い。そんな役の内面の感情が滲み出るように、坂東龍汰は「真也」を全身でもって体現していた。

思えば『弱虫ペダル』でも『スパイの妻』でも全く違う顔立ちだった。もしそれを“憑依型”と言うならば、そうかもしれない。間違いなく、毎回、彼は真っ白いキャンパスに役を緻密に描き上げている俳優なのだ。

(伊藤 さとり)



新人女優賞

— 小森 和子賞 —

伊東 蒼

受賞作品

『さがす』

片山慎三監督作品『さがす』で、伊東蒼はまたしても制服姿で走っていた。

短い登場シーンで強烈な印象を残した『空白』では威圧的な父親とうまく話せない娘の役で、スーパーで万引きを疑われ無我夢中に逃走していた。今作では父親の智（佐藤二朗）が万引きをしたと連絡が来たスーパーに、苛立ちを隠せない表情で走ってきて、関西弁で「ちょっとなにやってんの！」と父親を叱るしっかりした娘・楓を演じている。まるで正反対の役なのに伊東はそこに当たり前のように存在する。

周りの大人たちが失踪した智の捜索を諦める中、楓は強い意志で父親を探す。楓が、自分に空回りのケアをする教師の家に泊まった場面は印象的だ。教師の小さな子供がいちご味のゼリーを食べたいと両親にぐずる。そんな家族の会話に嫉妬し、こっそり自分のいちごゼリーをポケットに隠してしまう伊東のしらっとした顔がいい。

そして、父娘の関係のように永遠に続くと思われた智と楓の長い長い卓球ラリーの場面は、片山監督の伊東への絶対的信頼が感じられる。感情を爆発させることなくジョークも入れながら、ある選択について話す楓に胸がしめつけられた。今作の名シーンと言えよう。

芸歴が長い彼女が新人女優賞というのは少し違和感もあるが、伊東蒼という力のある女優をあらためて紹介したいと選ばせていただいた。

2011年、6歳でデビューし、『湯を沸かすほどの熱い愛』で新しい家族に心を溶かしていく小学生を演じた。この時すでに伊東の力は多くの人に知られたはずだ。現在高校3年生。学業と両立しながらの活動というが、近年の大舞台での活躍ぶりはどうだろう。NHK 朝の連続テレビ小説「おかえりモネ」、大河ドラマ「どうする家康」に出演、映画では『恋は光』でキーパーソン役を新たな姿で見せ、今春、紀里谷和明監督作品『世界の終わりから』では主演を務める。

今作で佐藤二朗に「怪物」と言わしめた伊東蒼が今後さらに、どんな素敵な怪物になっていくのか楽しみでしかたがない。

(安田 佑子)



新人監督賞
竹林 亮

受賞作品

『MONDAYS / このタイムループ、上司に気づかせないと終わらない』

2022年に上映された日本映画で、『MONDAYS / このタイムループ、上司に気づかせないと終わらない』ほど掘り出し物だった作品はない。昨年10月の公開から年をまたいでロングラン、熱烈なファンを作り出した。

中学2年のあるクラスに密着した竹林亮監督のデビュー作『14歳の栞』も2021年の公開後、SNSで広まり36都市まで上映は拡大され、今もスクリーンで再上映、再々上映を繰り返している。『14歳の栞』では主人公を作らず、クラス35人ひとりひとりの心の思いを丁寧にすくい上げたが、今作でも円井わん演じる吉川だけでなく、上司（マキタスポーツ）、5人の同僚、クライアント先、声のみの人物まで妙に全員が印象に残る。

青春ドキュメンタリーの前作と、オフィスが舞台のタイムループコメディである今作。話もジャンルも違うが、どちらも竹林監督が得意とする疾走感のある構成とあたたかい人間描写で長く愛される作品となった。

本作の企画の発端は、監督が所属し、今作の企画・製作・宣伝を一貫して担う会社の上司がタイムループのような同僚ツイートをしていたからだそう。それを監督と脚本家の夏生さえりを中心に12人が脚本を練り、怒涛の回数のタイムループで物語が破綻しないよう、頭脳明晰な社員を捕まえては一緒に気が遠くなる精査を重ねた。

実際の撮影現場では物語さながら、スタッフもキャストも「今、何周目の何曜日?!」と混乱することもしばしばだったというが、主演の円井は「監督の頭の中には完成形が見えているから」と信頼して演じたというインタビューで答えている。同じ演技の繰り返しがあれば、間違い探しのように美術、衣装、行動が少しずつ変わるタイムループを一週間で撮り切ったというのも凄い。

20代の頃、竹林監督はCMディレクターとして働きながら、映画監督になる夢をあためていた。映画界での彼の好発進は、映画人を夢見ながらタイムループにはまる者たちにも希望を与えるだろう。

(安田 佑子)



(c) まほろばスタジオ

ドキュメンタリー賞

「夢みる小学校」

記録メディアという性質の強いドキュメンタリーとしては珍しく、しかもフォーカスが教育システムだというのに、じんわりとした温かさに胸に響いてくる。この映画が放つ不思議な力にまず驚かされた。

自分そのままの“いる”ことの幸せを、体いっばいに表現している子どもたちの姿。彼らから伝わるのは、ありのままの自分を受け入れてもらえているという「自己肯定感」。この“圧倒的な”とでもいいくなる自己肯定感には、誰もがはっとさせられるだろう。

この作品は主に公学校として、「体験学習」をカリキュラムの軸に据えたある学園を追いかけたものだ。ここにはなんと、宿題もなければテストもない。先生さえいない。子どもたち自らが、生活そのものから題材を見つけ主体的に学びを深める。そばを育てるところから始まり、麺を打ち、食べてみる。彼らの学びはそばの風土歴史や数学などにどんどん広がっていく。子どもには無限の可能性があると、改めて実感させる彼らの学びの風景。

先進38か国の子どもを比較した、ユニセフのレポートがある。健康面でみると日本は第1位。しかし「精神的幸福度」は第37位。ワースト2位である。

かつて江戸末期に訪日した欧米人は、異口同音に「ここは子どもたちの楽園」と書き遺した。スクリーンには自由を“与えられた”子どもたちが、まるで楽園にいるかのようにのびやかに映っている。その姿は子供自立型の教育を行っていた寺子屋を描いた浮世絵とそっくりなのだ。

オルタナティブがどうのという問題ではない。また大きく時代が変わろうとしている、今、教育の主体とはなにかの問いは決して看過できない。これは教育の現場のみならず、全世代が共有すべきものだと思感させられる。未来はいまの子どもたちが創っていくのだから。

映画には人や社会を変える力があると信じている。オオタヴィン監督の作品は、この『夢みる小学校』はもちろん、当たり前すぎて見過ごしていた価値観への気づきを提示してくれているようだ。小さな人間たちの、エンカルでおおらかな明るい未来のために。

(日本映画批評家大賞機構事務局)



©2022 八目迷・小学館/映画『夏へのトンネル、さよならの出口』製作委員会

アニメーション作品賞

「夏へのトンネル、さよならの出口」

アニメーション映画というのは不思議な存在だな、と思うことが常々ある。人気原作を持つ作品、テレビアニメで人気を博し特別版に近い形で上映されるもの、テレビアニメよりもハイクオリティな画質や音質で楽しめるもの。それぞれの魅力があるが、昨年9月に公開された『夏へのトンネル、さよならの出口』は、アニメーションでしか出来ない表現、映画館という集中力が高まる場所で観ることの意味が存分に発揮された作品であった。

第13回小学館ライトノベル大賞でガガ賞と審査員特別賞をダブル受賞した八目迷の同名小説を映画化した本作。ポスターには制服姿の男女の姿が描かれ、タイトルにもある通り、夏の爽やかな青春ストーリーなのかと想像させられる。もちろんそういった側面もあり、10代の繊細な悩みや感情と成長が丁寧に表現されている。

しかし、本作で最も魅力的といえるのが、そのSF描写だ。WEBサイト等で読むことが出来る原作者・八目迷のインタビューでは、クリストファー・ノーラン監督の『インターステラー』の影響を大きく受けているという。主人公カオルとヒロインのあんずの出会いこそ、甘酸っぱい“ボーイ・ミーツ・ガール”ものに分類されるが、その後は目の肥えた映画ファンにもたまらないSF展開の連続となっている。

「願いが叶うけれど、100歳としをとってしまう」という都市伝説を持つ「ウラシマトンネル」。大切なものを失ってしまったカオルと、夢を叶えたい強い想いを持つあんずが、そのトンネルに入って目的を叶えようとするが…。物理学的な時間のミステリーと、傷ついた人々の心が癒えていく人間ドラマの融合が素晴らしく、田口智久監督のもと集結したスタッフによる作画や音楽の美しさも見事。鈴鹿央士（カオル）と飯豊まりえ（あんず）による声の演技もキャラクターにみずみずしさを与えている。映画でこそ味わうことのできるアニメーションの魅力が存分に発揮している一本だ。

(中村 梢)



アニメーション監督賞

湯浅 政明

受賞作品

『犬王』

今や日本の興行収入上位を占めるのは紛れもなくアニメーションだ。若者の多くがアニメーションを好む中、アートとしてスクリーン内を縦横無尽にキャラクターを動かす作家といえば、湯浅政明監督の名が上がるだろう。特に『夜は短し歩けよ乙女』では研ぎ澄まされた視覚による世界観で、恋する若者の感情をポップに描き出していた。

今作『犬王』では、松本大洋・キャラクター原案により設計された奇抜なルックと、独創的な和装で観る者を釘付けにする二人の主人公・犬王と友魚を、時に獣のように、時に儂く、時にアーティストックに表現し、湯浅節を最大限に活かした手法でアートアニメーションとしてわれわれを歴史の世界へと誘った。しかも昨今囁かれるアニメと音楽の親和性を「平家物語」&「琵琶演奏」&「ロック」で奏でるといふ斬新極まりない発想は、明らかに世界レベルと言える。

特に注目したのは、古川日出男の原作「平家物語 犬王の巻」を現代にロックオペラとして制作する意味をしっかりと捉えて構築されたストーリーラインだった。『エレphantマン』のように外見で人を判断する愚かさと共に、源平合戦で命を落とした平家の怨霊を琵琶の音色で鎮める供養を、ライブというスタイルで発想変換する。反戦と諸行無常の物語をイメージーションの奔流とともに表現していた。

大友良英による観客を巻き込むかのような音楽の数々。そこに犬王の声を担当したアヴちゃん（女王蜂）による、映画館をライブ会場に変えてしまうかのような力強い歌唱がのる。更に野木亜紀子による、様々な登場人物の感情を終始うごめかせていた脚本。

それらの要素を見事にまとめあげ、犬王と友魚との出会いから、生き生きと輝きを放つ彼らから終始目を離せなくさせた湯浅監督の手腕。そして力強く独創的であり、一度、観てしまったら忘れられない画。それが『犬王』。これぞ自分たちの“表現方法”を信じた湯浅政明監督の素晴らしさであり、日本製作のアニメーションとして世界に誇れる作品だと確信した。

(伊藤 さとり)



©Takeo Dec.

助演男優賞

窪田 正孝

受賞作品

『ある男』

石川慶監督作品『ある男』で窪田正孝が演じたのは、幾重にも重なる心の傷を封じ込め、他人として生きることを選んだ男という難役だ。

映画冒頭、傘を畳み、街の文房具店に入ってきたその男は、雨雲まで店内に連れてきたかのような空気を纏っている。男は店番の里枝（安藤サクラ）が気になっているようだ。関わってはいけない危ない男なのか、ただ引っ込み思案なのか謎めいていてわからない。

谷口大祐と名乗ったその男（その後 X=エックスと呼ばれる）は、のちに里枝と結婚。勤勉に仕事をし、妻と子供たちにも愛情深い男として、物語の序盤で死んでしまう。だが死後も窪田の存在感は作品の最後まで漂い続ける。

今作では窪田正孝のキーパーソン力がしっかりと光った。彼がスクリーンに登場すると、何かやらかすのか、ただ静かに相手に寄り添うのか、善人か悪人か予想がつかず、それが物語を牽引する。それも力づくではなく、とても自然に。

今回、他人の出自で生きた男を演じるにあたり、窪田は「役を埋めず、Xのグレイゾーンをそのままにした」と言う。さますると観客にわかりやすく、Xの事情を理解してほしいと俳優の欲が一瞬の演技に出てしまうところを、窪田はXのささやかな欲望に純粋に従った。そしてこのXという男の評価を、遺した妻や息子（坂元愛登）、Xの身元調査を依頼される弁護士（妻夫木聡）、そして観客に委ねた。

Xはある者が見れば不幸で、ある者が見れば幸せだろう。また、短いシーンだがXの父親役も窪田が演じ、Xとは両極端な息子への愛情表現で強い印象を残した。

今年はすでに公開された『湯道』では助演、今後公開される斎藤工監督作品『スイート・マイホーム』では主演、瀬々敬久監督作品『春に散る』では助演で出演する。

デビューして17年目。窪田は着実に年輪が刻まれ、いい顔つきをしている。これからも人間の持つ複雑さや強さや弱さを体現する俳優として歳を重ねてほしい。

（安田 佑子）



助演女優賞

吉岡 里帆

受賞作品

『島守の塔』

吉岡里帆は「まっすぐ」のよく似合う女優だ。

かつては日本のハリウッドとも呼ばれた京都の太秦に生を受けた吉岡里帆は、高校3年の時、エキストラとして映画にかかわって以来、その魅力のとりことなる。

様々なアルバイトを掛け持ちしてお金を貯め、京都〜東京を往復し、俳優養成所に通う日々を過ごす。その地道な努力が実を結び、高視聴率を誇ったNHK連続テレビ小説「あさが来た」の愛くるしいメガネっ娘の役でブレイク。

映画ヒロインとしてのデビュー作『明烏 あけがらす』では、抜群の反射神経でコメディエンヌとしての才能を発揮。昨年に公開され話題となった『ハケンアニメ』ではアニメ業界の覇権を争う新人監督に扮し、日本アカデミー賞優秀主演女優賞を受賞する等々、高い評価を受ける。

『島守の塔』ではボロボロのように砂浜に横たわる、吉岡里帆の顔のクローズアップから始まる。

場面は変わって、戦下の沖縄（昭和18年）。愛国心に燃える少女が、アメリカかぶれの妹に、日本国民としての心得を力強く説いている。沖縄の独特なイントネーションも巧みにあやつり、沖縄出身の池間夏海（吉岡にも劣らぬ名演技！）と絶妙なコンビネーションを見せてくれる。この時点では、色白で端正な顔立ちに若干の違和感を抱いたが、吉岡の全身を使った熱演によって次第にそれも薄れていく。

南国の砂漠で、累々とした日本兵の死体に囲まれ、アメリカ兵に銃を突き付けられながら、生と死の選択を迫られるクライマックスでは、思わず魂をわしづかみにされる。

書道八段。アルトサクソも吹く。写真集等ではセクシーな肢体を披露することもあり、演技派の女優としても、華のあるタレントとしても、さらに大輪の花を咲かせることは間違いなし。この先、どちらの道を選ぼうと、吉岡里帆らしく、どこまでもまっすぐに突き進んでもらいたい。

（島 敏光）



編集賞

— 浦岡 敬一 賞 —

小林 譲 竹林 亮

受賞作品

『MONDAYS / このタイムループ、上司に気づかせないと終わらない』

タイムループという王道の題材を、現代の日本社会に生きる人々が共感できる映画として成立させた『MONDAYS / このタイムループ、上司に気づかせないと終わらない』は、異例のヒットを記録した。しかも原作ものではないオリジナルストーリー。

発想の勝利ともいえるこの映画によって、たとえ規模が小さな日本映画であってもアイデアで勝負できるのだと可能性を広げてくれた。

公開当時「最近、どんな面白い映画観た？」と聞かれると本作を挙げていたのだが、嬉しかったのは、普段洋画ばかり観ているような人にもこの映画の面白さが伝わっていたことだ。SNSでの口コミの力はたしかに大きい。しかしながらその現象は、“本当に面白い作品”にしか通用しない現象でもある。

小さな広告代理店で働く者たちが、同じ一週間を繰り返す。物語の舞台となるのは、オフィスのワンフロア。何十回と同じ一週間が繰り返される設定であるため、当然のことながら同じ空間で物語は展開し続ける。

タイムループしていることを強調するための同じ構図が必要となる一方で、一人また一人、タイムループに気づいていく。同じ画のなかで変化を出しながら単調にならないよう、俳優の芝居にも撮影方法にも工夫が求められただろう。

観客にとっても、さっき見た物語が繰り返されるが、同じなのにちょっとずつ変化があり、同じなのに次の展開にワクワクする。しかも「そういうことだったのか!」と、タイムループの種明かしをされて、すべて分かったうえで二度目の鑑賞をしたときに、つじつまが合っていないとまではならない。

どれだけ素材があるかにもよるが、どちらにせよ編集はパズルのような作業だったはずで、それこそ編集中でも同じ作業を繰り返しているような感覚だったのではないかと想像がつく。タイムループという外さない題材、面白い脚本、俳優の芝居力、それらをより面白いものに昇華させた編集のセンスを讃えたい。この映画の象徴ともいえる鳩の使い方は、最高に面白かった。

(新谷 里映)



脚本賞

吉田 恵輔

受賞作品

『神は見返りを求める』

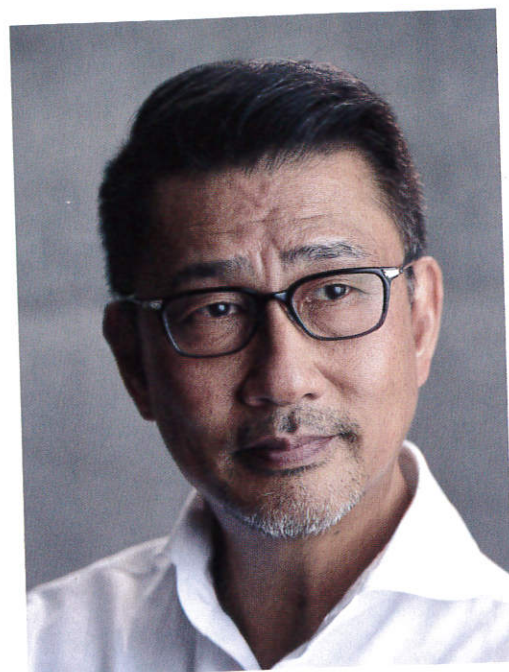
YouTuber とサラリーマンの異色の人間模様を描いた映画『神は見返りを求める』。『ヒメアノヘル』では戦慄の殺傷事件と物悲しい人間模様を、『空白』では息苦しさを覚えるほど迫真に迫ったサスペンスを、話題作を次々に生み出してきた吉田恵輔監督によるオリジナル作品だ。

再生回数が一気に伸び悩んでいる YouTuber のゆりちゃんを岸井ゆきの、イベント会社に勤めるとにかく優しい田母神を演じるのはムロツヨシ。ある日合コンで知り合ったゆりちゃんの一生懸命さに気づかされた田母神は、撮影のための車を出したり、会社で着ぐるみをレンタルしてきたりと、無償で見返りを求めずに手伝いをするようになる。まさに“神”的な存在として、ゆりちゃんを支えていく。

とあることをきっかけに、ゆりちゃんは人気 YouTuber となり、田母神に冷たく接していく。恩を仇で返された田母神は、ゆりちゃんのプライバシーを同じく YouTube で発信していくのだが...。ブームを超えて、一つのカルチャーとして定着している YouTuber をモチーフに、吉田監督らしいシニカルさたっぷり描いていく本作。人気が出て天狗になるという、昔からある人間の悪癖に、“動画配信での暴露”という今ドキのエッセンスを加えた、非常にスリリングなストーリーだ。

これまで発表してきた全ての監督作品で脚本も担当している吉田恵輔。漫画原作ものも得意としているが半数はオリジナル作品となっており、その発想力の広さ、豊かさに驚かされる。仲良くなった 2 人の関係が崩れていく過程をこれでもかというほど嫌悪感たっぷりに、時に切なく描くのは吉田監督の得意とする所であるが、本作は YouTube という身近な存在を描いているからこそ、ヒリつくほどリアルだ。映画を観て笑い、怒りながら、こういう人っているよな、いや自分がそうなのかも...、とヒヤリとさせてくれる。「人間観察」という使い古された言葉では表現出来ないほどの観察眼に尊敬の念を抱く。今後はどの様な人間ドラマを描いてくれるのか、新作の発表が待ち遠しい。

(中村 梢)



主演男優賞

中井 貴一

受賞作品

『大河への道』

この俳優が出ているのであれば、観てみたい。中井貴一は、そう思わせてくれる国民的俳優である。デビュー作『連合艦隊』に始まり、『ビルマの竝琴』『四十七人の刺客』『マークスの山』『梟の城』『壬生義士伝』など数多くの映画に主演・出演。2007年の主演映画『鳳凰 わが愛』ではプロデュースも手がけた。今や、世界的には俳優が監督や製作を兼ねることは珍しくはないが、日本映画界においてはその数は少なく、しかも日本・中国合作の映画で主演とプロデュースを兼ねたことは、当時、話題になったと記憶している。

中井貴一のフィルモグラフィを見ると時代劇の数が多い。時代劇に求められる俳優であることはもちろん、彼自身が時代劇を自身のキャリアに取り入れてきたともいえるだろう。それは、今回の主演男優賞となった映画『大河への道』に対する取り組み方からも察することができる。

『大河への道』の原作は、立川志の輔による新作落語「大河への道—伊能忠敬物語—」。“究極の話芸”とも評され、中井貴一も魅了された一人だ。その面白さと素晴らしさを「自分は裏方でもいい、何としても映画にして届けたい」と自ら企画。

さらには「このままでは時代劇にまつわる文化が日本から消えていくかもしれない……」と危惧していた中井にとって、時代劇というジャンルも重要なポイントだった。

『大河への道』では、伊能忠敬の大河ドラマを成立させるために奮闘する現代パートと、伊能忠敬亡き後に地図を完成させるため奔走する弟子たちの江戸時代パート、二つの時代の物語が展開し、主要キャストは二つの時代それぞれで役を演じている。

中井が演じた市役所の池本、地図作りの完成を見守る江戸幕府の高橋景保、どちらの役にも共通するのは、情熱と誠実さ。中井貴一という俳優にもそれはぴったりと重なる。日本映画の未来に、時代劇という希望を映し出す映画をよくぞ作ってくれた、演じてくれたと、感謝を込めて主演男優賞を贈りたい。

(新谷 里映)



主演女優賞

板谷 由夏

受賞作品

『夜明けまでバス停で』

凜とした女優である。板谷由夏の持つ美しさの中には、他の美人女優にはないある種の生活感が息づいている。

高橋伴明監督による『夜明けまでバス停で』では、コロナ禍で住み込みの居酒屋の仕事を失い、街の中に放り出され、ファミレスや漫画喫茶に通うお金にも事欠き、遂には人けのないバス停で一夜を過ごすことになる女性に扮している。

どこにでもいそうな正義感にあふれるごく普通の女性。寒々しい明かりのボツンと灯るバス停のベンチで仮眠を取る姿は、何とも切なく痛々しい。板谷由夏は心の中に怒りを秘め主人公になり切る。そのリアリティーにあふれる佇まいが、物語をグイグイと引っ張っていく。

1975年、福岡に生まれた板谷由夏は、バランスの良い体型と長身を生かして、10代の後半からモデルとして活躍する。1999年『avec mon mari』で映画デビュー。この会話のあふれ返るドラマで、いきなりヨコハマ映画祭の最優秀新人賞に輝く。2000年代に入ってから『運命じゃない人』『サッド ヴァケーション』などのエッジの利いた作品で高い評価を受ける。

テレビドラマにも数多く出演。2007年からは、11年間の長きにわたって「News Zero」のキャスターを務める。ファッション・ブランドのディレクターでもある。

才気あふれる女優でありながら、まるでどこかで会ったことあるような気にさせる雰囲気も持ち合わせている。本作のヒロインはホームレスに転落して、ゴミ箱の食品をあさるまでになっても、プライドを捨て切れず、人に頼らず、物乞いもせず、体も売らない。板谷由夏はそんな社会から孤立した女性にぴったりと寄りそう。役作りのために居酒屋でバイトをしたという逸話も残っている。

柄本明、筒井真理子（ルビー・モレノもいる!）という曲者俳優に囲まれ、物語の中心にデンと腰を据え、圧倒的な存在感を見せつける。数々の強敵を打ち破って、今回の日本映画批評家大賞の主演女優賞となった。

(島 敏光)



ワタシタチのトキワ荘賞

一般財団法人手塚治虫文化財団

かつて豊島区南長崎にあった、ささやかな木造アパート。ここに後の日本漫画の巨星である手塚治虫が入居したことから、「トキワ荘」という伝説が始まった。

手塚治虫という大きな背中を目指しながらトキワ荘に集ってきた若者たち。彼らは貧しさのなか互いに助け合い、それぞれのオリジナリティを求め漫画に向き合った。

トキワ荘から生まれた個性豊かな漫画家たちによる作品の数々は、世界をあっという間に驚かせましたし、今なお色褪せず日本漫画文化の本流として脈々と受け継がれている。まさに小さな部屋から生まれた、大きな夢の結実である。

日本映画批評家大賞では、日本漫画の素晴らしさを称えるために、第20回からアニメーション関係の賞を設けている。この「ワタシタチのトキワ荘」とは、日本映画批評家大賞からアニメーション部門が独り歩きするために、新たに設置された社団法人。いわば兄弟姉妹のようなものである。

メタバースやサブカルチャーといった現代の世界観を巻き込みつつ、「トキワ荘」のスピリットを受け継ぎ、第二第三の手塚治虫を見出したい。トキワ荘が存在した豊島区から、独自の活動が始まる。

記念すべき初回の「ワタシタチのトキワ荘賞」をお受け取りいただくのは、手塚治虫文化財団において他にない。手塚治虫がいなければ、漫画家を夢みる若者たちがトキワ荘で出会うこともなかった。さらに言えば、日本の漫画やアニメの文化もまた違ったものになっていたのではないだろうか。

手塚治虫文化財団といえば、特に印象的なエピソードが思い浮かぶ。あの「ジャングル大帝」と「ライオンキング」の類似を巡っての騒動だ。自称ディズニー狂いというほど、ウォルト・ディズニーに憧れていた手塚治虫。この一件を本人が知ったらむしろ光栄に思うはずだ、と訴えることすらなかった。

互いに刺激し支えあいながら、互いを尊重し、素晴らしい作品を生み出したいと願うスピリット。この手塚治虫マインドを礎に、次世代のクリエイターたちが生まれてくることを切に願っている。

(日本映画批評家大賞機構事務局)



特別賞

— 松永 武 賞 —

立川 志の輔

受賞作品

『大河への道』

座布団から広がる世界がある。落語家の口から繰り出される言葉だけで、観客の頭に噺の世界が像を結ぶ。それだけで落語という芸能のすごさが分かるものだが、立川志の輔の落語は、その話術は、われわれの脳裏に生き活きとした映像を浮かびあがらせる。これが映画的でなくてなんといえるか。

その立川志の輔の新作落語が、1本の映画となったのが『大河への道』である。中井貴一というひとりの映画人を“その氣”にさせて、彼の企画から映画作品としてこの時代劇が生み落とされた。なんということだろう。

この映画『大河への道』という作品そのものも、もちろん良かった。映像となった時点でも落語の世界観を踏襲しつつ、そこにプラスして中井貴一はじめ制作陣のカラーも観えてくる。まさしく落語と映画が見事に結実した、稀有な作品なのではないだろうか。

もちろん落語が映画になるということ自体が珍しいことである。短編などの娯楽作品として部分的にはあるかもしれない。しかし落語自体が江戸時代をその舞台として映画化されたものは少ない。「居残り佐平次」を元にした、あの名高い『幕末太陽傳』くらいではないだろうか。

北陸富山に生を受け、「落語家になりたい」と28歳の時にカリスマといわれた立川談志に弟子入り。瞬く間に落語家としての才能を開花させた。談志師匠に「立川流の最高傑作」と評させたほどだ。

立川志の輔の落語は、まるで江戸時代の寄席のようだ。観客と一体となるように、話術で描き出していく江戸時代の景色と人情。本来であれば、落語には枕があって本編に入るのが通常だと思うのだが、志の輔の場合はそうはいかない。ズバッと本編に入っていき、志の輔落語のすごさ。そしてそれを受け止めついでに観客たちのすごさである。

今回の特別賞を立川志の輔という落語家に受け取っていただけることは、本当に嬉しいことである。日本人の心を捉えてきた時代劇。映画館に足を運ぶ人たちに時代劇をお届けすることの必要性を強く感じる昨今。本当に日本映画らしい作品が生まれたことを喜びたい。

(日本映画批評家大賞事務局)



特別主演男優賞

岡田 准一

受賞作品

『ヘルドッグス』

岡田准一の役づくりは、驚くほど完璧である。なかでも近年、アクションを伴う作品においては、俳優としてだけでなく、殺陣やファイトコレオグラファー、格闘デザインとしてもクレジットされている。

しかしながら、アクション俳優という呼び方はそぐわない。というのは、岡田にとってのアクションは、演技の延長線上にあるものであり、役者にとって演技に繋がる武器となるものと捉えているからだ。

岡田が役のために体を鍛え始めたのは18年前、映画『フライ,ダディ,フライ』まで遡る。その後TVドラマ「SP 警視庁警備部警護課第四係」をきっかけに、カリヤジークンドー、修斗といった本格的な格闘技を身につけた。師範資格も取得し、続く『図書館戦争』『ザ・ファブル』シリーズでもその技術は活かされた。さらに時代劇では『蝸ノ記』で初めて本格的な殺陣に挑み、『関ヶ原』『散り椿』『燃えよ剣』と殺陣の腕を磨き続けてきた。

原田真人監督との3度目のタッグとなった主演作『ヘルドッグス』では、格闘デザインを担当。自身の役だけでなく、メインキャラクターすべてのアクションを考案。単に格闘シーンとして見せるのではなく、アクションのなかにそのキャラクターの芝居が滲み出るのが、岡田の得意とするところだ。

エンターテインメントとしての魅せるアクションに、スタントマンの存在は欠かせないが、俳優自身がアクションもこなすことで、芝居に深みが増す、芝居が本物になることを岡田は証明した。そして岡田准一に続けと、ほかの俳優の目標にもなっている。

役のために技術を身につけ体型も変える——役に合わせて自身を変える役づくりが、デ・ニーロ・アプローチと言われてきたように、“岡田准一アプローチ”と言えるものを彼は作り上げたのではないかと。そんな開拓者である彼を讃えたい、という経緯で特別主演男優賞に至る。

『ヘルドッグス』で岡田が演じた兼高昭吾、狂犬化した闇堕ち元警官というその役は、演技力と格闘技力、岡田准一の魅力を最大限に放射する役だった。

(新谷 里映)



ゴールデン・グローリー賞

— 水野 晴郎 賞 —

風吹 ジュン

受賞作品

『裸足で鳴らしてみせろ』

風吹ジュンという女優がずっと好きだった。最初にはっきりと認識した作品は NHK テレビドラマ「阿修羅のごとく」(79)での可愛い四女役で、その後、VHSビデオで見た映画『蘇る金狼』(79)は、当時、ティーンエイジャーだった私に大人の女性の魅力を教えてくれた作品だった。それは“小悪魔的な魅力”であり、同性をも惹き寄せる向日葵のような笑顔だった。

そんな風吹ジュンの代表的な映画のひとつが中原俊監督の『コキユ 貝殻』(99)だ。中学時代からずっと思いを寄せていた男性に30年ぶりに再会し、少女のような表情を見せる大人の女性を演じ、報知映画賞主演女優賞を受賞した。その時の共演者、小林薫とは何度も共演し、石川慶監督の『Arc アーク』(21)では夫婦役で再共演を果たしている。

個人的な話をするとなら彼女とは何度か映画記者会見や舞台挨拶で一緒にいるが、阪本順治監督の『魂萌え!』(07)のキャンペーンでは私やスタッフにも愛用のプロポリスキャンディを配り、終始笑顔で場を和ませていたのを思い出すと、彼女が多くの現場に呼ばれる理由が見えてくる。そう、「人柄が顔に出る」とはまさに風吹ジュンのことであり、それが役のバックボーンを表現するのにも影響を与えるのだ。

今回の作品である工藤梨穂監督の『裸足で鳴らしてみせろ』では、風吹ジュンは主人公の青年のひとり、榎(諏訪珠理)と暮らす盲目の養母「美鳥」を演じた。ふらりと出かける時もお洒落を忘れず、つい面倒を見なくなる可愛らしさを兼ね備えた役。穏やかな人柄が分かる口調と愛を与える人だと観客に伝わる柔らかな表情で、青年達に行動を起こさせる。

物語は美しくも虚しく、どこまでも切なく、美鳥の願いである「世界旅行」を叶える為に、偽りの旅での音集めをする青年達の偽りの心を描いていく。この映画のトーンである儚さの中心部分を彼女のあわい輝きを放つ演技が担い、若手俳優達が自由に感情を表現していたように見受けられる本作。

その確固たる存在感と内側から醸し出されるしなやかな表現力は、「役者に賞味期限はない」という証そのものであり、これこそが風吹ジュンという女優が映画人に愛される理由だと確信している。

(伊藤 さとり)



ダイヤモンド大賞
— 淀川 長治 賞 —
宮本 信子

受賞作品

『メタモルフォーゼの縁側』

宮本信子は昨年公開された『メタモルフォーゼの縁側』でも、映画ファンの期待を決して裏切らない、安定した演技を披露してくれる。

この映画ではボーイズ・ラブ（BL）が重要なキーワードとなっているが、今どきのポップカルチャーがあつかうと、ともすれば浮ついた印象を与えることがあるが、ベテラン女優の存在が、それを地べたに引き戻す。

宮本信子は1945年に小樽に生まれ、名古屋で育つ。60年代から文学座等の劇団に学び、後にフリーとなる。舞台上で鍛え上げられた着実な演技で、徐々に頭角を現し、映画でも60年代の『日本春歌考』、70年代の『男はつらいよ 純情篇』等で名バイプレイヤーとしての地位を確立する。

80年代に入り、『お葬式』『タンポポ』『マルサの女』等の伊丹十三監督による一連のヒット作品に主演。伊丹十三亡き後は、しばしのブランクを経て、『阪急電車片道15分の奇跡』『キネマの神様』と一貫して良質な作品に出演を続け、数多くの賞に輝いている。

「あまちゃん」「ひよっこ」等、テレビでも目覚ましい活躍を見せている。シリアスよし、コメディよし、ジャズや小唄もたしなむ。真正面から芝居に向き合いながらも、ジャズのレッスンに通い、「何歳になっても夢中になれるものがあるということは大切なこと」と語る。何事にも真剣に取り組み、一步一步前進を続ける姿が、様々な媒体を通して、ひしひしと伝わって来る。

宮本信子の携わった作品からは常に良心の存在を感じる。それは少しずつ形を変えながらも、50余年の長きにわたって、自分自身の出演作を丁寧に選び続けて来た証。

『メタモルフォーゼの縁側』では、孫ほども年の離れた少女（芦田愛菜）とBL漫画を通して友情と信頼を築き上げていく孤独な老婦人の姿を、圧倒的な説得力を持って演じ切り、現代社会に孤立せず、難なく溶け込んで行くさわやか女性像を示してくれる。こんなステキな老婦人と陽の当たる縁側で、のんびりと語り出すことが出来たら、どんなに楽しいことだろう。宮本信子の進化はまだまだ終わらない。

（島 敏光）



監督賞
三宅 唱

受賞作品

『ケイコ 目を澄ませて』

今も昔も、映画は監督で観る、と語る映画ファンが数多く存在する。そんな人たちから今、最も注目を浴びているのが三宅唱監督ではないだろうか。

1984年に札幌に生まれ、将来の目標の定まらなかった少年が「映画の中には何でもある」と気付き、映像の世界にのめり込んでいく。三宅唱は地元の高校を卒業後に上京、映画美学校に通いつつ、一橋大学に学び、現在までに長編・短編あわせ20本近くの作品を残している。

その中でも『Playback』は「映画芸術」誌の日本映画ベストテンの第三位。『きみの鳥はうたえる』では伸び盛りの俳優陣から見事な演技を引き出し、繊細な青春ドラマに仕上げ、高い評価を受ける。

『ケイコ 目を澄ませて』では、実在した聴覚障害の女性プロボクサーをモデルにして、新しい物語を紡いでいく。セコンドの声もレフェリーの声も聞こえないというとんでもない逆境の中でファイトを続けるヒロイン（岸井ゆきの）の、まさに野獣のような表情は決して忘れることが出来ない。役者の本気を引き出す監督の手腕は恐るべしだ。

この物語は、従来のボクシング映画にある挑戦、敗戦、挫折、再挑戦、勝利、感動という王道の方程式から遠く掛け離れているが、その迫力と感動は、どのスポーツ映画より深く心地よい。

『きみの鳥はうたえる』では無目的に日々を過ごす若者を、『ケイコ 目を澄ませて』では一つの目標にダイナミックに突き進むハンディを抱えたアスリートの姿を描き、ベクトルの違う二つの青春をきめ細やかに描き分けている。本作では力強さと繊細さを同居させ、主人公が聴覚に障害を抱えていることとは裏腹に、観客は様々な音を耳にする。町の雑踏、生活音、ジムのざわめき、そしてグローブが作り出す音。16mmフィルムで撮影されたなめらかな映像と相まって、緊張感を高めていく。

三宅唱の名前を見つけたら、何はともあれ映画館に直行することをおすすめする。

（島 敏光）



©2022「メタモルフォーゼの縁側」製作委員会

作品賞

「メタモルフォーゼの縁側」

とても温かく、前向きな映画である。そして登場人物たちの深厚な感情を丁寧に映し出している映画でもある。昨今、日本映画は人気漫画の映画化が多く、この『メタモルフォーゼの縁側』もその部類に入るが、人気のある若手俳優に光を当てた青春映画の登竜門的な映画とは異なり、17歳の女子高生の青春、75歳の老婦人の青春をとおり、人生における気づきを描いている。

しかも、漫画原作であることを最大限に活かし、漫画を創り出す者＝作家の苦悩も主人公2人の物語にそって寄り添わせる形で描いている。

118分、物語の展開はとても緩やかである。世界的に注目されている漫画という日本カルチャーを題材に、BL（ボーイズ・ラブ）という漫画のジャンルで多様に触れながら、周囲に馴染めず将来が決まらない学生の高藤、母子家庭や老人のひとり暮らしなど、現代社会の片隅に生きる人たち、市井の人たちを映し出す。絢爛豪華なCGやアクションを多用した映画とは対極に位置する映画であるため一見平淡に映るかもしれないが、小さなものを大きな尺で描くことも映画的だ。

脚本・岡田恵和と監督・狩山俊輔の組み合わせも、この作品にとって理想的だったのではないかと数多くのドラマや映画の脚本を手がけてきた岡田恵和の優しさに満ちた脚本を、映画監督としては今作が3作目となる狩山俊輔が俳優の演技と融合させていく。

17歳のうらら、75歳の雪、この2人の感情を最初から最後まで誠実にすくい取る。他を描きすぎずに2人の物語として走りきったことを評したい。

うららと雪を演じた芦田愛菜と宮本信子の配役も素晴らしい。祖母と孫ではなく、年の差58の“友情”がどこか羨ましくもあり、互いに刺激を受けて、その刺激がより良い未来を描き出す。

映画はさまざまな世界を映し出すことができ、その世界を通じて伝えるべきものがある。『メタモルフォーゼの縁側』は温かさや前向きさを伝える映画。いまこの時代に必要な映画である。

(新谷 里映)

授賞式関係スタッフ

舞台進行総括	前田 雅敏
舞台監督	鈴木 康正
舞台監督補	西尾 智仁
舞台進行	石野 優太 鈴木 美佳 大林 絵里香 古坂 和也 小松 かれん
道具	押田 圭一郎
映像編集	川崎 雄太

受賞者アテンド	小野 よしみ 岩橋 浩一 山之内 陽菜
協力	株式会社リアル
サポート	岡田 麻衣子 山本 あゆみ 永谷 隆吏 橋本 貴代

選考委員

島 敏光
中村 梢
新谷 里映
安田 佑子
伊藤 さとり
川村 蘭太

映像スタッフ

【株式会社 REIGETSU】

動画配信事業部部長	岡崎 秀明
動画配信事業部	若野 智仁 枝松 誠也 平井 雄太 畑澤 章浩 平野 祐津希
運用チーム	畝森 美規子
テクニカルチーム	西村 乙羽
映像編集チーム	江崎 周

広報・デザイン

【株式会社 未来づくりカンパニー】

代表取締役/アドバイザー	大羽 昭仁
Webディレクター/プランナー	後藤 智博
プランナー/デザイナー	菅 美咲子
アシスタント	佐藤 さき

事務局

貝田 直佑起

日本映画批評家大賞機構からのご案内



映画をもっと楽しむために

「シネマクラブ」のご案内

名作とは、瞳を閉じた時、まぶたのスクリーンに映る作品です。
個々それぞれある「名作」を何本心に残せるでしょうか。
そんな「あなたの名作」は何本ありますか？
これからの日本映画の未来に希望を託し、
一緒にこの日本映画批評家大賞を支えるクラブをつくりましょう。

【シネマクラブ会員特典】

一般の映画ファンの方々、そして業界団体の映画ファンの皆さまにご加入して
いただける『日本映画批評家大賞シネマクラブ』をご準備しております。
授賞式へのご招待や、映画ファン同士が交流を深めていただけるような、
魅力あふれるイベントへの優先的なご案内がシネマクラブの会員特典です。

【日本映画批評家大賞シネマクラブ】

【年会費】 10,000円/おひとり

ご加入いただきますと、これから様々な情報を皆さまにお届けしてまいります。
ぜひ日本映画批評家大賞の公式ホームページよりお申し込みください。





第 32 回
日本映画批評家大賞
協賛企業のご紹介



LUCE
LOUNGE



ルーチェは銀座の風情を継ぎながら、
伝統あるこの街で多くのお客様から支持されている、
新たなスタイルのラウンジです。
洗練された空間で、
ラグジュアリーなひと時をお楽しみ頂けます。
大切なゲストのご接待や、プライベートタイム、
ご友人との賑やかなお集まりなど、
多様なシーンにご利用頂けます。



私たち、ラウンジ ルーチェは
「第 32 回日本映画批評家大賞」を応援します！

LUCE
LOUNGE

Lounge LUCE
ラウンジ ルーチェ

〒104-0061
東京都中央区銀座7丁目8-15
第二新橋会館2階
tel.
03-3571-0191



皆さまのご来店を心よりお待ちしております。

うるおい美容液石鹸を
名水日本一「うちぬき水」でつくりました

うちぬき^{あい ひめ}愛媛石鹸

天然保湿成分コラーゲン・
アクアポリン発現促進成分^{※1}配合で
お肌にハリとうるおいを与えます。

※1 ザクロ果実エキス



本当のキレイは
石鹸から

NEONESとは、若さの再生を意味し、
英語のneo「新・再生」と
ギリシャ語のneos「若々しさ」を意味する語源から誕生いたしました。
お肌と自然環境にも優しい、安心・安全な商品作りがコンセプトの
OEM化粧品製造販売業会社です。

日本化粧品工業連合会 正会員
西日本化粧品工業会 正会員
化粧品公正取引協議会 会員

NEONES

〒793-0041 愛媛県西条市神拝甲355-1-1007
Tel. 0897-64-9926 Fax. 0897-64-9928
URL <http://neones.co.jp>
株式会社ネオネス化粧品

素肌
で

CSO^ンn

株式会社インペラトール

高
潔
の



一粒の麦

かつては身近にあり 私たちにやすらぎや生きる力を与えてくれた
懐かしく ゆたかな自然 私たちはそれを残したい 守りたい
そして子供たちに伝えていきたい そう強く願っています

人が人らしく生きていける未来をつくるために 私たちは一粒の麦になりたいと思います
踏まれても 冷たい雨風にさらされても 力強く生き抜こうとする麦の心で
子供たちを育て 自然環境を守る活動に取り組みます

一粒の麦がひとりひとりの心に 思いやりという種を残し
やがてたくさんの麦穂が実ることを心から願い その実現を目指していきます

児童の健全な育成の支援活動

海洋環境の保護と美化活動



私たち 海洋環境保護・児童育成協会は、

『日本映画批評家大賞』を応援しています！



一般社団法人
海洋環境保護・児童育成協会

〒105-0004 東京都港区新橋 2-13-6-7F

TEL : 03-3581-0812

FAX : 03-5251-3785

<http://www.ocaa.or.jp>

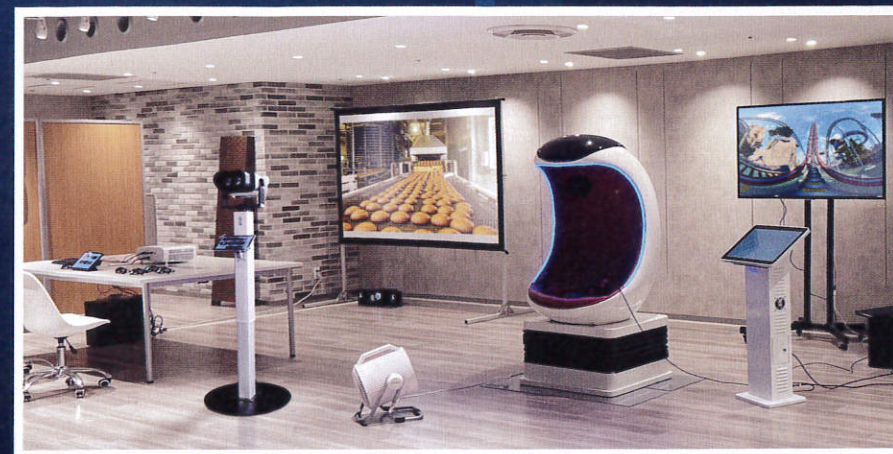
業務用VR No.1の実績。

VRのトータルソリューションはL.A.Bにお任せください。

NEWリリース!
DXにも最適!

VRサイネージ

VRを手軽に運用可能!
楽しく体感、
成約率・来館者数アップ!



渋谷MODIにてVRサイネージSHOW-GEKI (VR連動チェア)の体験ができます。



DPVR-4D シリーズ

弊社独自のプログラムを有しており常にアップデートを重ね、
ニーズに合った商品をご提供致します。

撮影 編集 配信 トータルサービス



L.A.Bではこれまでに10,000以上ものVRコンテンツの撮影・編集・販売・ライブ配信を行っており、
日本でもトップクラスのVRコンテンツ制作数を誇ります。撮影から販売にいたるまで必要なツールは
全て自社開発しており、クライアントの細かな要望にも柔軟かつスムーズな仕上がりをお約束します。

また、VR撮影機材、VRクロマキースタジオレンタルも行っております。

驚きと革新を。



株式会社 エル・エー・ビー

本社
〒880-0855 宮崎県宮崎市田代町75 テクノロジーズビル
TEL.0985-35-8580(代)
STUDIO LAB・神田
〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町4-2-6 神田GMビルB1
TEL.03-6265-6567





Ideas for Tomorrow

UNIPLATは、世界中の研究者、起業家、組織がSDGsを推進し、より多くの露出を獲得し、世界中の支援者とつながることを支援するために設計されたオンラインプラットフォームです。

UNIPLATはアイデアの力を信じ、世界中の研究者や起業家が経済状況、地理、所属に関係なく、自由にアイデアを共有し、その優秀性に基づいて公平に報酬を得られるようにします。

UNIPLATは、ユーザーに優れたイノベーションを提供します。

- ・ 世界初の暗号通貨による寄付を実施
研究者・起業家の裁量で、暗号通貨のインセンティブを他の資産に交換することが可能。
- ・ クレジットレーティング（研究者ランキング）
研究者・起業家のUNIPLAT上での活動をもとに、AIを用いて自動評価。
- ・ Pre IP（事前登録された知的財産）
ブロックチェーンのスマートコントラクト技術を利用して発行される、事後開示によるコンテンツのアイデアの模倣を防止するための証明書のことです。

私たちは「日本映画批評家大賞」を応援しています。

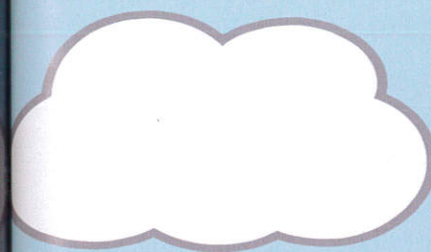
株式会社 ユニファイジャパン

〒210-0007

神奈川県川崎市川崎区駅前本町 11-2 川崎フロンティアビル 12F-B

HP : <https://unify21.co.jp/>

Email : info@unify21.co.jp



NEO HOUSING DISTRIBUTION

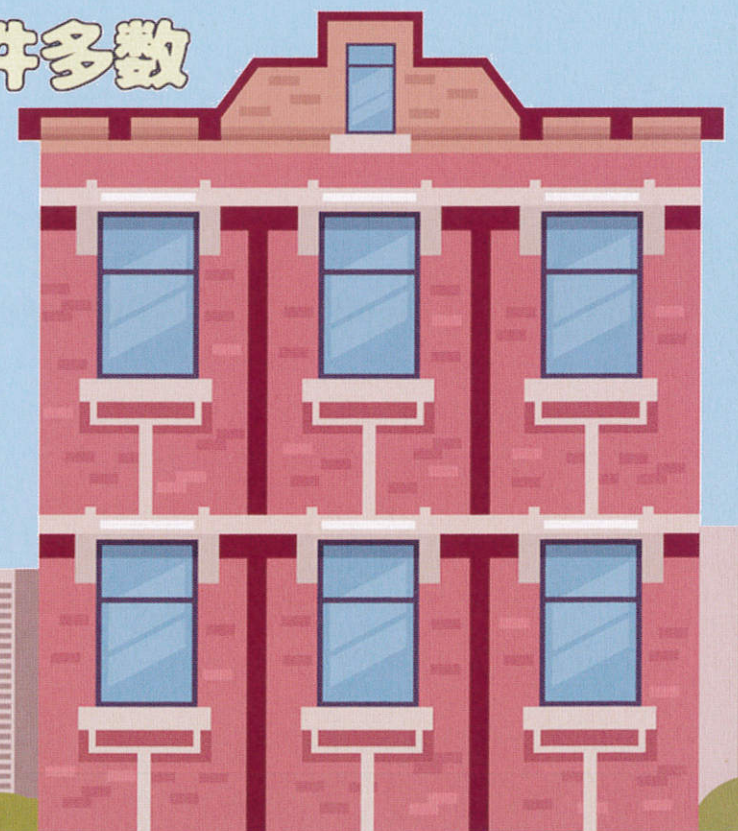
私達は「日本映画批評家大賞」を応援しています！



◆ 収益物件 非公開物件多数

収益マンション、ビル経営
サラリーマンオーナーさんも
初めての方もお気軽にご相談
ください。

LEARN MORE



株式会社 NEO住宅流通

〒577-0036

大阪府東大阪市御厨栄町1丁目7-25ケーダッシュヒルズA-5

TEL:06-6618-5333

<http://www.neo-jyutaku.com/>



Pegasus Ball Fund



世界のエンターテインメント業界における主戦場は、中国・米国

・ 時価総額を見ても、(文字通り)桁の違う戦い。コンテンツは、世界規模での争奪戦が起こりつつある。

・ 巨大なネット系コンテンツ・プラットフォームが台頭。
- Youtube/Netflix等、資本市場/大企業資本を活用して集めた巨大資本により急激に成長している。

・ コンテンツの獲得/強化を目的とした再編が着々と進行している。
∴ プラットフォーム間のユーザー獲得競争において、良質なコンテンツは必要不可欠となっている。

結果、各国各所で業界の再編が進行

日本では、コロナ禍が旧エンタメ・芸能分野への投資機会をもたらした。

・ アーティスト/タレント個人に、脱・事務所的なトレンド(DXの加速)。
・ 企業/法人単位でも、コロナ禍対応に苦戦し、資本参加や買収を受け入れる事案が発生。

- 旧来は非上場会社が多いこともあり、資本的アプローチが極めて困難。

・ 今後の景気回復を追い風とし、独自の価値を追求できる分野が存在(音楽ライブ等)。

以上を踏まえ、当ファンドは国内のあらゆるコンテンツ、IPの可能性に着目し、金融×テクノロジーの力を以て、日本のコンテンツ・エンターテインメントのアジア・世界展開を行う集団である。

Pegasus Ball Fund, L.P.
ペガサスボール投資事業有限責任組合

東京都港区六本木1丁目6番1号



飲食店経営・コンサルティング

弊社の事業である飲食コンサルティングのノウハウを基に、大阪府東大阪市で「日本酒と鮮魚と釜飯 太公望ほっぺち」を経営・運営しております。布施という街で地元の人に愛され、遠方からも足繁く通ってくださるお客様に支えられ続けて、2021年で6周年を迎えました。

太公望ほっぺち (<https://t-hoppechi.com>)

児童福祉事業

放課後等デイサービスは、障害のある3歳～18歳までの就学児が、放課後や夏休みや冬休みなどの長期休暇中に利用する福祉サービスです。学校外で集団生活をする機会を設けたり、子どもたちの居場所をつくったりすることで、障害のある子どもと、その家族を支えるためのもので、「障害児の学童保育」とも呼ばれています。

ピースドリーム (<https://peacedream.jp/>)
ピースドリーム 荒川教室 (<https://p-dream-second.jp/>)



建築・太陽光パネル設置 企画、運営、提案、販売

再生可能エネルギー事業に取り組むために太陽光パネル設置に関する企画、運営、提案、販売やインフラ整備や、国土強靱化計画に伴う工事などを通じて、社会を支える事業を行っております。大規模な建築・建造から、一般的な住居に関する工事など、幅広い事業に対応しております。



私たちは「日本映画批評家大賞」を応援しています。

〒577-0056
大阪府東大阪市長堂1丁目3-2 0 夢絆ビル3F
06-6743-6822
yumekizuna.share@gmail.com

ナノイオン水で家中の水の活カアップ!

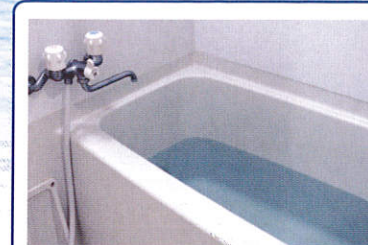
ニューウォーターマックス

健康も、生活もいきいき!



キッチン

- 水のいやな匂いが減り、味が良くなります。
- ご飯が美味しく、ふっくら炊けるようになります。
- コーヒー、お茶の味が、まろやかで美味しくなります。
- 流しのカビやヌメリが減少します。



バスルーム

- シャンプー後の髪がしっとりします。
- 浴槽の汚れが減り、湯アカも付きにくくなります。



トイレ

- トイレの水アカ、カビ、黄バミを減らし、汚れが付きにくくなります。

給、排水管

- 給水管中の赤錆を黒錆に変化させ赤錆を止め管内をきれいになります。
- 水中のカビ、藻などを抑制し、トリハロメタンの発生を減少させます。
- 排水管の汚れを溶解し、臭いを防ぎ、流れを良くします。



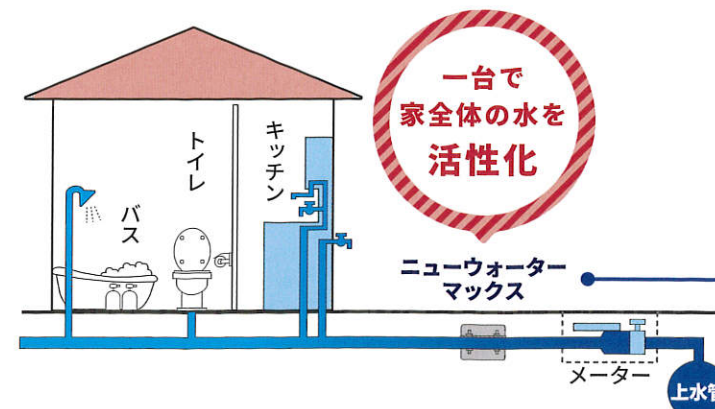
洗濯機 / 洗面台

- 水アカ、カビを減らし、汚れが付きにくくなります。

ペット/植物

- ナノイオン水は吸収が良いので犬や猫は飲む量が増加し、動きが活発になります。
- ナノイオン水は腐りにくく、浸透力があるので切花は通常より大幅に長持ちします。

設置図 (一戸建ての場合)



日本ヘルスケア株式会社

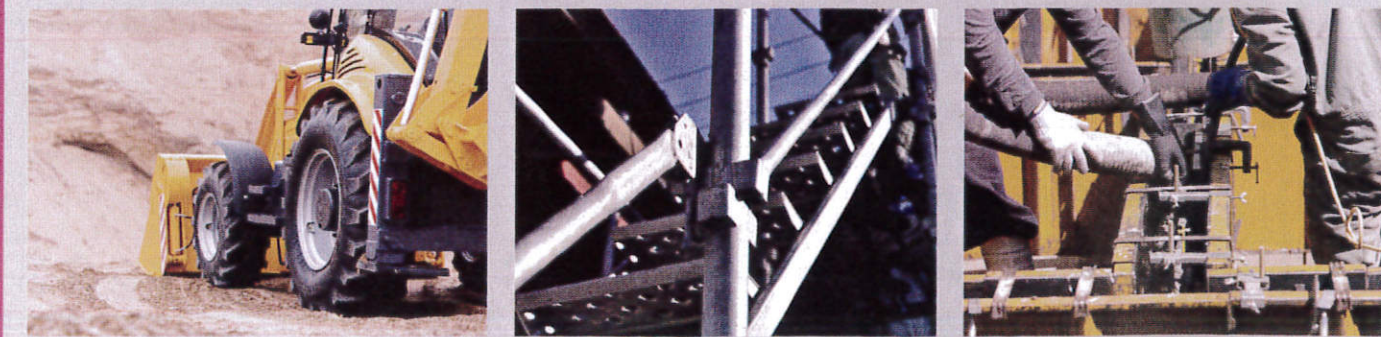
〒151-0073 東京都渋谷区笹塚2-21-12
TEL:03-3377-2361 FAX:03-3377-2214

WEB

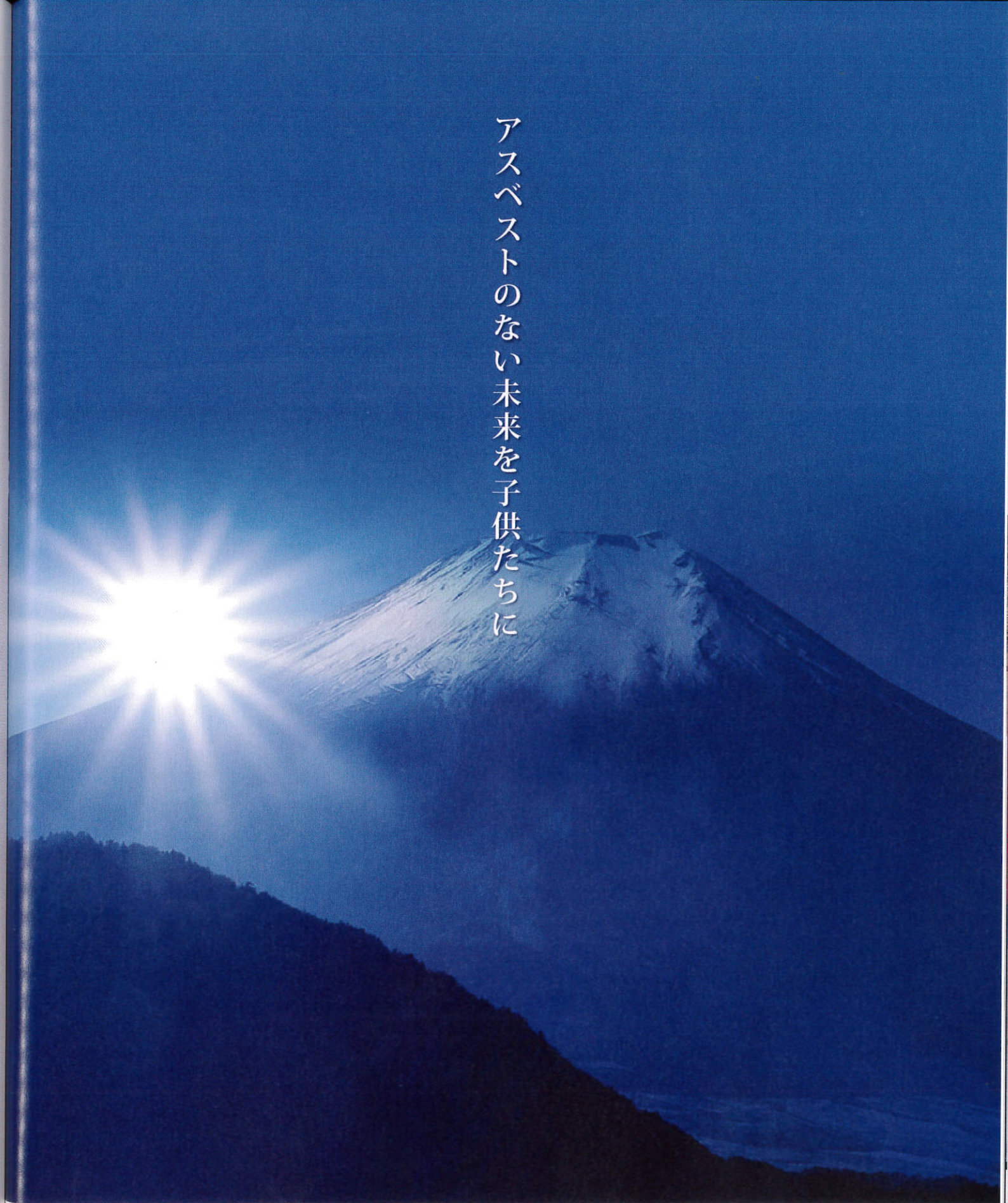


未来に繋がるモノづくり
 有限会社 K工業

	<p>01</p> <p>QUALITY</p> <p>安心して喜んでいただける 品質・技術の向上と歩んでいく</p>	
<p>COMMUNITY</p> <p>土木工事・開発を通じ 地域の発展とともに歩んでいく</p> <p>04</p>		<p>02</p> <p>CHALLENGE</p> <p>失敗を恐れず常に挑戦し 転んでも立上り続けて歩んでいく</p>
	<p>ECO</p> <p>モノづくり企業として地球環境の 未来を考え歩んでいく</p> <p>03</p>	



【本社】 〒513-0821 三重県鈴鹿市地子町316 TEL059-369-3166
 【福島支店】 〒960-8068 福島県福島市太田町19-30-2F TEL024-563-7745
 【東京支店】 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-2-1-2F TEL03-6261-3437



アスベストのない未来を子供たちに

株式会社
A-LINE
 — COMPANY PROFILE —

関西を中心に建築・リフォーム工事を施工する有限会社ハヤブサです

私たちは『日本映画批評家大賞』を応援しています



有限会社 ハヤブサ

Hayabusa Co., Ltd



@319HAYABUSA

〒546-0014 大阪市東住吉区鷹合12123

Tel/Fax 06-6699-6868

不動産が持つポテンシャルを最大限に高める提案をお約束致します。



私たちは「日本映画批評家大賞」を応援しています。



株式会社 ジャパンリンクスマネジメント
Japan Links Management Co., Ltd.

〒106-0041 東京都港区麻布台3丁目2-9 第二エイルビル2F

TEL:03-6426-5987/FAX:03-6426-5922 <https://www.japanlinksmanagement.com>

千葉県一宮町の特産品!!

高い希少価値

マルヒメレタス



無農薬・水耕栽培

通年安定供給

年間一定価格



保在期間は2週間以上～

葉先まで音が出る程シャキシャキ!!

朝採れ直送!!

株式会社ファーストライブ
千葉県一宮町船頭給10-1
Tel 0475-36-5075



お客様が求めるサービスや
企業で必要とするサービスを次々と提供。

株式会社エアーズは、ダスキンプランチャイズ加盟店として新しいおそうじ用品のレンタルサービスをはじめ、お客様が求めるサービスや企業で必要とするサービスを次々と提供してまいりました。さらに企業や公共団体のみなさまを対象に、イベント機材のレンタルを行うとともに、企画から設営・運営・管理までトータルなサービスを通してお役立ちしています。環境に優しい合理的な生活提案、イベント開催の目的である楽しみや、喜び、そして大きな感動のドラマをお届けするために。

私たちは日本映画批評家大賞を応援しています。



Produce

ダスキントール 千葉イベントセンター

人が集まる所に、ダスキントール。

私たちダスキントールは、イベントの専門家。全国規模のイベントから地域のお祭りまで、人が集まる様々な場所での実績が豊富。私たちは機材やプランを通じて、イベントを成功へ導くお手伝いをいたします。

全国規模の大イベント

※2020年3月現在
全国110店舗のネットワークと多彩なアイテムで、大イベントを成功へ。全国持ち回りイベントも、豊富な経験値でスムーズな運営をサポートします。

企画運営・撤去

機材レンタルはもちろん、イベントの企画立案から会場設営・運営・撤去までイベントをまるごとサポートいたします。

町内会の催し物

地域のイベントには、その地域に精通した地域店がきめ細かく対応します。

ご要望に合わせた充実のサービスを。

厳選した豊富なアイテム:レンタルコース

アイテムをお選びください。 ▶ サイズ・数量をお選び下さい。 ▶ お申し込みは、お電話で。

専門プランナーがお手伝い:企画オーダーコース

イベント目的等をお聞かせ下さい。 ▶ 基本プランとお見積りを提出します。 ▶ 準備や運営までサポートします。

会場づくりのプロを派遣:スタッフサービス

配達・回収 ▶ 設営・撤去 ▶ 設置・調整 ▶ オペレーション ▶ 企画・制作 ▶ 進行・運営

演出からタレント手配まで:コーディネートサービス

看板制作・ディスプレイ ▶ タレントのキャスティング ▶ 記念・撮影 ▶ 記念品・景品手配

印刷物 ▶ ケータリング紹介 ▶ コンパニオン

Withコロナでのイベントを
衛生管理のプロ『ダスキん』が全力でサポート

衛生管理サービス × イベント会場施工

ダスキントール
DUSKIN RENT-ALL

千葉イベントセンター

千葉市緑区高田町 1650

TEL 043-292-1105



JAPANESE ARGAN OIL



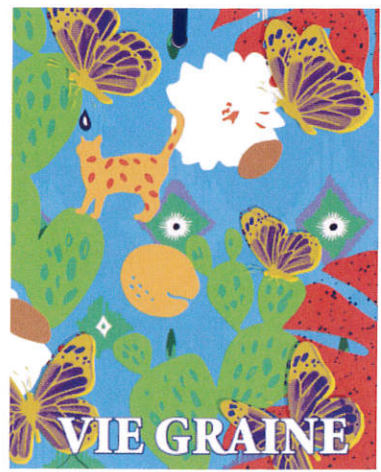
EURECAは心の「美」「健康」「豊かさ」を手に入れたいと願う女性たちを応援しています

EURECAが着目したのは、アルガンオイルの「生命力パワー」
過酷な砂漠で、雨が降らなくとも生きられる強い生命力を持つ「アルガンノキ」
その種の核から搾り出す自然が生んだ100%ピュアなアルガンオイル！
無限大の力を持つ優れた作用を多くの方に伝えていきたいと思ひます。



代表取締役 下山 貴美子

EURECA株式会社
(ユリーカ)
〒170-0005
東京都豊島区南大塚2-26-7
ME新大塚ビル6階
TEL:03-5810-1857
FAX:03-5810-1856
HP:www.eureca.jpn.com



YELLOW MOON



薰月企画

YELLOW MOON



A **Cosplay** Project from Tokyo. Raw&Naked truth

問い合わせ：
karma@yellowmoon.moe

安心・安全・信頼

再生可能エネルギー・リフォーム
土木工事全般・山砂販売のことなら

「東北トラス」



高い技術力
多くの実績



私たち、東北トラスは
「日本映画批評家大賞」を応援しています！

東北トラス株式会社

〒981-3132 宮城県仙台市泉区桂4丁目1-9

<http://tohokutras.com/>



この仕事でつらい事は？

「ない、ない！」

片付いたよ、ありがとうって

言われると嬉しいし

壊すのって楽しいよ～！



土木・舗装・造園

関東高木産業株式会社

TEL.0289-76-1625

栃木県鹿沼市上石川 2079-1



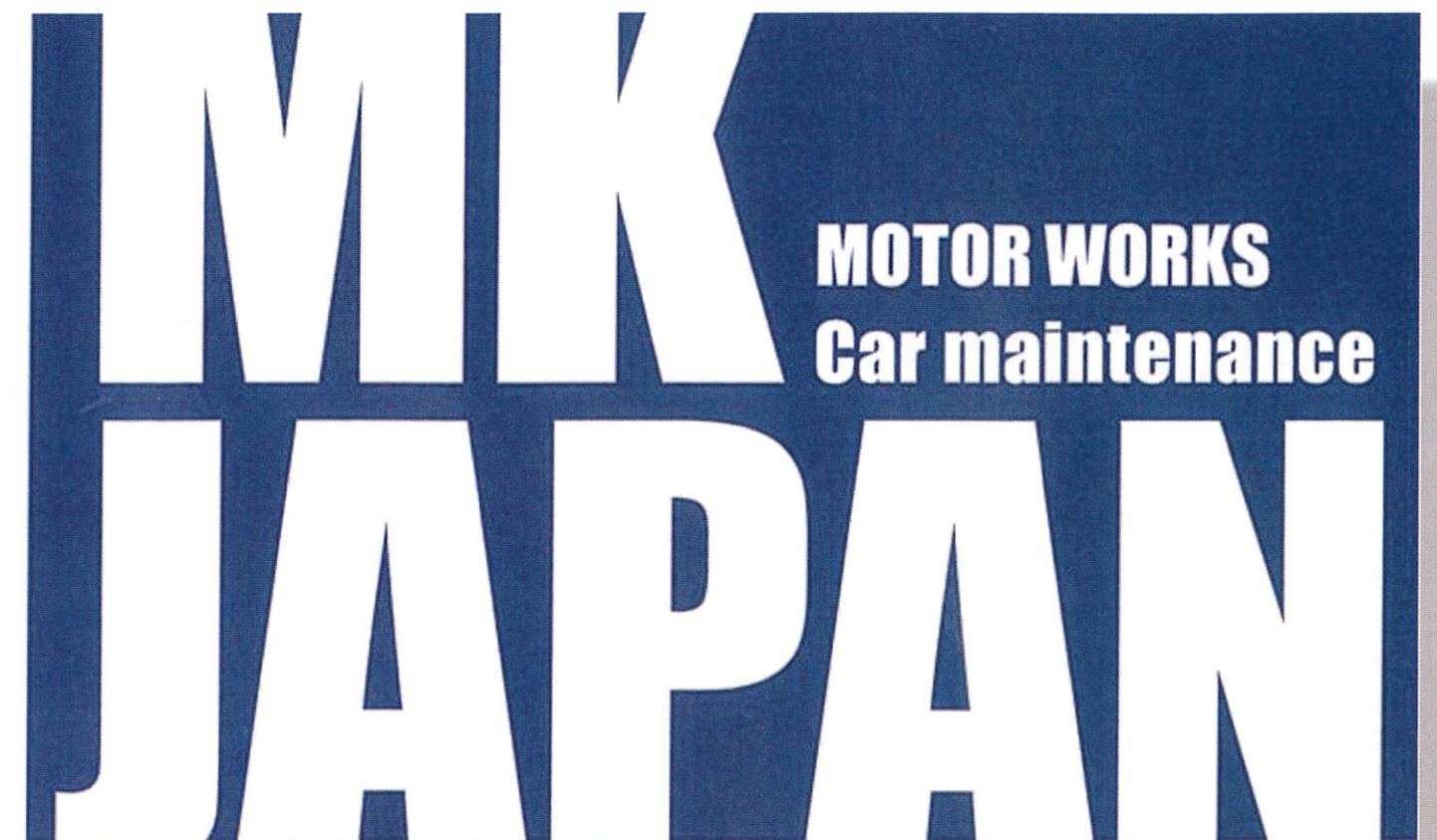
SEIYUTECは、建築物の足場を施工する会社です。
仕事を通してお客様・従業員、協力会社と共に
成長できるよう共存し続け、
社会へ貢献・発展できる会社を目指しています。



株式会社 SEIYUTEC

大阪府大阪市北区梅田2-2-2
ヒルトンプラザウエストオフィスタワー19階
tel: 06-6450-9377
mail: seiyutec81000@yahoo.co.jp

私たちは「日本映画批評家大賞」を応援しています。



株式会社 MKJapan

〒350-1213 埼玉県日高市高萩566-1
TEL:042-980-7090 FAX:042-980-7091

BLESS on EARTH

世界の人々と対話し、祈り、祝福すること



一般財団法人

ROYAL NIPPON 財団

「生命への畏敬」を貫くために



我々は、「生命への畏敬」を理念に「1/1のいのち」をテーマとしています。障がい者、難病を抱える方、子ども、心に傷がある方、身体は元気でも活躍の機会がない方、LGBTQなどのマイノリティの方々、動物を含める生き物が、健やかに過ごせてすべての命を大切に扱って受け入れる社会にしていかなければならないものとして、新たな支援活動や必要とされる取り組みの提示、様々な専門家との連携によるPRや実践活動の発表を進めております。



「現代文化の一翼を担う映画を更に充実、そして向上させたい。」
という願いで長い映画の歴史を知り尽くした批評家たちが、
限りない愛情を注いで選ぶ「日本映画批評家大賞」。
この日本映画の文化や先人の軌跡を今後の更なる発展に繋げ、
次世代を育てる糧となる本活動を応援しております。



METイノベーション国際推進機構

医学・医療福祉 (Medicine・Medical-Welfare) ・環境 (Environment) ・技術 (Technology)

[International Promotion Systems of MET Innovation]

事務局長 萩原 国博

〒542-0012

大阪府中央区谷町9丁目2-29北平谷町ビル6Fステラ・コーポレート内

TEL:06-6777-3833 FAX:06-6768-6788

Email:stella27122@gmail.com

HP:https://www.met-innovation.com/

